



アルカリハライド基板上的の金属薄膜の特性評価

清水 啓史

福井大学学術研究院 医学系部門

キーワード：1 分子動態計測、蛋白質、X 線回折

1. 背景と研究目的

蛋白質の構造変化を 1 分子で動画計測する X 線 1 分子動態計測法 (1) で、蛋白質に取り付ける観測プローブを作製する際の作製条件検討と、作製した金ナノ結晶と蛋白質の反応性の検証のため、アルカリハライド基板に形成した金属薄膜の特性評価、および基板に固定した蛋白質と金ナノ結晶の反応性の評価を目的として BL8S1 を利用した。

2. 実験内容

アルカリハライド単結晶基板に高真空中で金薄膜を形成し、基板をアニールする。製膜条件・アニール条件を検討した金薄膜付き基板を用いて金ナノ結晶の特性評価を行った。BL8S1 で表面回折を計測した。また、作製したナノ結晶を剥離し、ガラス基板に固定した蛋白質と金ナノ結晶を反応させ、2 次元 X 線検出器でナノ結晶からの回折点を測定した。

3. 結果および考察

基板表面に金薄膜を形成したサンプルを回折計に固定し、入射角スキャン、低角入射角での X 線照射による基板結晶表面に形成された金ナノ結晶からの回折パターンを計測した。アニール条件や基板を変更しながら種々の薄膜を作製した。低角入射の観測条件を用いて金粒子の結晶性の違いを観測し、作製条件や基板による違いを評価した。また、観測用基板表面を表面修飾し、蛋白質を固定したのち剥離した金ナノ結晶を反応させた。この試料を用いて計測を行った。結晶の作製条件が良好な場合は金結晶の回折位置 (2θ) に S/N のよい回折点が 2 次元 X 線観測器で観測された (図 1)。また、表面回折パターンからは金結晶の回折面からの回折が得られた。フィルム上の乾燥させたサンプルからも、基板表面に反応基によって固定した試料で回折点が観測された。回折点が観測される頻度、輝度から作成条件の妥当性を評価し、作製条件の改良点を検証した。引き続き、BL8S1 での観測プローブの作製条件の評価を行っていきたい。

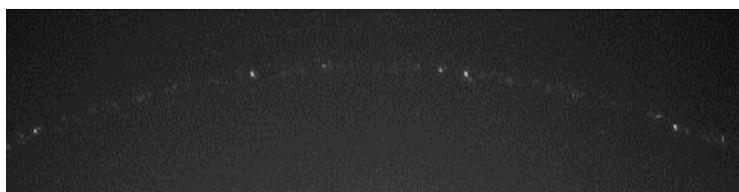


図 1 観測されたデータの例
基板上に反応させて得た回折像。金結晶の回折位置によい S/N の回折点が観測された。

4. 参考文献

1. H. Shimizu., *et. al.* Cell132(1),67-78, 2008.
2. H. Shimizu., *Biochim Biophys Acta Gen Subj.* 2020 Feb;1864(2). pii:S0304-4165(19)30125-4.